凡例　① 所在地　② 申請者　③ 階数　④ 住戸数　⑤ タイプ

ソフト＋認定

ディアパークスコンフォートスクエア

基本情報

①港北区綱島西五丁目
②ディアパークスコンフォートスクエア管理組合
③地上11階
④308戸
⑤既存・分譲

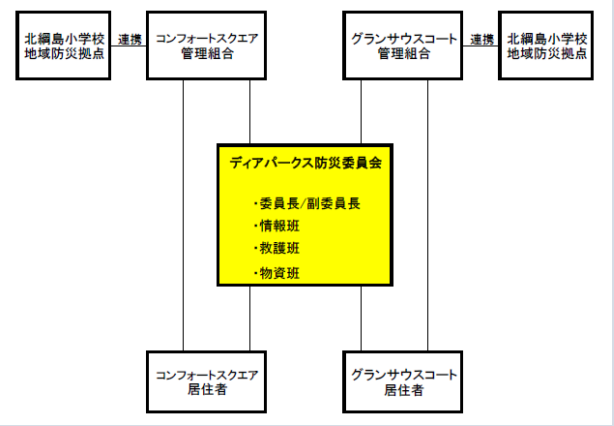
ソフト＋認定の概要

【防災組織】

隣接するディアパークスグランサウスコートと合同で、管理組合理事会の諮問機関として防災委員会を組織し、災害時の対応の準備等を実施

前年度の役員が現年度の役員をサポートすることで組織の継続性を維持する体制を整備

災害時は、防災委員会のメンバーを中心に、震度５強以上の地震や風水災害等発生時に、災害対策本部を立ち上げ



▲防災委員会組織図

【防災マニュアル】

在宅避難を念頭に備蓄、災害時の行動規範及び災害対策本部の活動手順等をまとめたマニュアルを作成

また、居住者と防災委員が災害時の初動に実施すべき行動をまとめた初動対応表を作成

大規模な地震（震度５強以上）発生後の居住者と防災委員の初動対応

◎:メイン担当、○:サポート

活動	活動内容	居住者	担当班 委員長/副委員長	情報班	救護班	物資班	工程表
A. 居住者の初動対応							
1. 身の安全の確保	- 揺れを感じたら、テーブルの下など安全な場所で揺れがおさまるまで待機する - タンスや本棚などの大型家具は、転倒の恐れがあるため近寄らない - 揺れが激しい場合はガラス戸が割れる可能性があるため、ガラスから離れる	◎					
2. 火元の確認	- 揺れが収まったら台所や暖房器具等の火元の確認 - 電力復旧後に火災の原因となるのでコンセントを抜き、ブレーカーを落とす	◎					
3. 安否確認ステッカーの表示	- 家族にケガ人がいない場合は**緑色のステッカー**を、救助や救護が必要な場合は**オレンジ色のステッカー**を、玄関ドアの外側に貼る - 隣近所に声かけして、お互いに安否を確認する	◎					
4. 地域拠点へ提出する連絡書カードの記入	- 対策本部からの連絡後、対策本部に出向き連絡書カードに記入 連絡があるまで自宅待機	◎					居住者の協力を依頼する
B. 防災委員の初動対応							
1. 防災委員はディアプラザ3Fのファミリーフロアーに集合（エレベーターは使用しないこと）	- 防災委員は自宅の安全確保後、ディアプラザ3Fのファミリーフロアーに集合する 鍵の保管者は、不在の場合管理人室に開けられるよう手配する - 必要に応じて、委員長または代理者は、UNEで防災委員に集合を連絡する		◎	○	○	○	
2. 災害対策本部を立ち上げる	- 対策本部の開設、テーブル6台、椅子12脚、ホワイトボード2台を配置する 配置図を作成しておく。 - 停電の場合、仮設照明を用意する ガス発電機1台、電工ドラム1個、投光器2台を、保管場所から対策本部に運ぶ - 委員長または代理者は、人員の確認、対策指示を行う 決定後、体制表の黒板に記載する。（各種の様式を準備しておく）		○ ○ ◎	○ ○ ○	○ ○ ○	◎ ◎ ○	
	- 必要な書類、筆記用具、懐中電灯、トランシーバーを用意する ⓐ 居住者安否確認に必要な用紙 1) 【様式1－1】安否情報シート（コンフォートスクエア） 24枚 2) 【様式1－2】安否情報シート（グランサウスコート） 14枚 3) 【様式1】安否情報シート（簡易版）（コンフォートスクエア） 4) 【様式1】安否情報シート（簡易版）（グランサウスコート） 5) 【様式2】対策本部安否情報確認シート（コンフォートスクエア） 1枚 6) 【様式2】対策本部安否情報確認シート（グランサウスコート） 1枚 ⓑ 地域拠点への提出書類 1) 【様式3－1】連絡書カード（安否確認版）コンフォートスクエア 308枚 2) 【様式3－1】連絡書カード（安否確認版）グランサウスコート 128枚 前もって各用紙をエクセル、ファイルして保管する。保管場所を決めておく		○	◎	○	○	
3. 居住者にアナウンスする	- コンフォートとグランサウスの管理人室から、インターホンで全戸一斉放送する 内容は、①対策本部設置を上げた、②安否確認シートを玄関ドアに貼ってください。 ③ 居住者の協力を依頼する。 **要望が事前を作成しておく** - 停電の場合、メガホンを使用する		◎	○			連絡書カード記入のアナウンス

▲初動対応表

【防災訓練】

災害対策本部の立ち上げ訓練、安否確認訓練を実施（令和６年度実施内容）

【飲料水等の備蓄】

飲料水、食料については７～10日分、携帯トイレは７日分を各家庭内で備蓄

【地域との協力体制】

北綱島小学校地域防災拠点と協議を行い、避難の長期化が見込まれる場合は、避難者情報を収集、地域防災拠点へ提出及び避難物資の一括受取を行い、サテライト（在宅避難所）として自主運営

▲発電機作動訓練